

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Pal膝折教室（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和8年1月19日		～	令和8年2月8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数)	24名
○従業者評価実施期間	令和8年1月19日		～	令和8年2月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別指導と集団指導を行っている為、子どもの発達を多角的に捉えられることや子どもの日々の生活に繋げやすい。	行動の背景や環境の影響、対人関係の特徴等を確認することや、個別で練習したことを集団に反映し、集団での困りごとを個別で練習する事等を行っています。	支援の質を深め、職員の専門性を底上げすることを意識していきます。
2	集団での姿を把握しているため、保育所・学校との連携がしやすい。参加の仕方切り替え対人関係など、園で必要なスキルを具体的に助言できる。	個別と集団での支援目標や内容を明確化、保育所訪問だけでなく連携支援も行い、園での支援に活かせる具体的な助言を提供しています。	園・家庭との情報共有の質を高め、個別と集団の様子をわかりやすく伝えていきます。また、園で活かせる具体的な支援方法を共有することや家庭での再現性を高めるアドバイスをを行います。伸びたスキルを訪問・連携先で確認し、園の先生と共通の支援方針を持つことができるように努めていきます。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別と集団の両方を担当するため、職員の負担が大きくなりやすい（準備、記録、振り返り、支援計画の作成等）	個別担当制によって日に寄り業務負担がそれぞれ異なる現状がある。	業務量を見える化し、調整が必要な部分を話し合偏りを客観的に把握し、役割分担を行っています。
2	個別と集団で担当者が異なる場合、支援の一貫性が崩れないように、声かけ、支援方針、観察の視点等を共有する時間をもっと取ることができると良い。	個別・集団・訪問と業務が多岐にわたり、スケジュールが合わない。記録・準備・保護者対応などの業務が重なり、共有の時間が後回しになってしまうことがあり、手の空いている人が対応する構造になりやすい。	観察・記録のフォーマット統一し、個別・集団・訪問を同じ視点で記録していくことで行動の違いを比較しやすくすることで支援の一貫性が高まり、場面差の理解が深まるようにしていきます。
3			